

それゆけ！ としょかんだより



2007年4月
創刊号

発行所
高野山大学図書館
閲覧室

新入生の皆さん、まだ図書館を使ったことのない皆さん！新しい一年のはじまりです！図書館では、“図書館だより”創刊号が発行されました。入学して新しい生活を迎えられる方も、「大学に来てるけれど、図書館は使ったことない…」って方も、ぜひ手にとってご覧ください。

さあ、図書館を
使ってみよ〜♪



図書館長からの挨拶



図書館長
武内 孝善 先生

一二〇〇年の叡智が凝縮した空間

武内 孝善

このたび、図書館の新しい広報活動の一つとして、「図書館だより」が発刊されることになりました。これは、図書館員の総意によるものであり、同慶にたえません。

ところで、わが高野山大学附属図書館は、どこの大学図書館にも負けない、極めて勝れた特色をもっています。それは何か。題名にあげた「一二〇〇年の叡智が凝縮した空間」がそれです。つまり、「一二〇〇年の叡智」、いまから一二〇〇年前・空海さんが活躍していた時代以来の本物の

史料を数多く所蔵していることです。厳密に言えば、空海さんより五十年あまり前の奈良時代、そして平安・鎌倉時代に書写された多くの古写本があります。質・量ともに、これだけのものを持っている大学図書館は、無いといっても過言ではありません。それらを拝見いたしますと、昔の人たちの勉強方法がわかるとともに、ご労苦のあとが偲ばれます。

これらの史料を使いこなせば、素晴らしい研究成果が約束されます。それは間違いありません。是非、本学図書館の史料をご利用いただいて、独創的な研究をおこない、立派な論文に仕上げてください、とお願いいたします。

図書館にどのような史料・本が所蔵されているかは重要ですが、もっと大切なことは、それらの蔵書がいかにより多くの人たちに利用され、人生を生きる上での糧になったか、であろうと考えます。

われわれ図書館のスタッフ一同は、皆さんのこれからの学生生活が、より充実した実り多きものになるために、骨身を惜しまずお手伝いさせていただきます。皆さんとともに、世界遺産の地で、世界に誇れる図書館を創りあげたい、と願っております。



図書館員からの挨拶



木下 浩良 館員

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。図書館に勤務します、木下と申します。日頃は、図書館の事務室にいます。皆様、どうか図書館を存分にお使い下さいますようお願い申し上げます。皆様にとって、図書館が書齋であり、憩いの場所になればと願っています。確かに大学の図書館は調査研究のためには第一のツールですが、勉強ばかりがキャンパスライフではありません。皆様にとって図書館が、ホットステーション(どこかで聞いたフレーズですが・・・)でありたいと思っています。図書館には、休憩室をはじめ、娯楽雑誌・ベストセラーの本も揃えています。

インターネットも使えます。そして、図書館の利用の仕方など、分からないことがありましたら、どうぞなんなりとお申し出下さい。皆様と一緒に考えていけたらと思っています。様々な情報の発信基地に、図書館がなれたらと思います。閲覧室でお会いできることを楽しみにしています。



浦 芳誠 館員

私は、主に図書整理やシステム関係の調整を担当している浦と申します。

本学の図書館では雑誌や週刊誌、売れ筋ベスト20の本、インターネットが出来るパソコンを用意して皆様のご利用をお待ちしています。

「学生の皆さん、図書館を最大限に活用してください。」



玉谷 江里子 館員

閲覧室で貸出、返却などをして

いる玉谷です。
本の検索や、書庫での図書の探し方など、何か分からないことがありましたら、お気軽におたずねください。新入生の皆さんも、あまり図書館を使ったことのない方も、図書館を、くらしの一部になるくらい、たくさん使ってください。

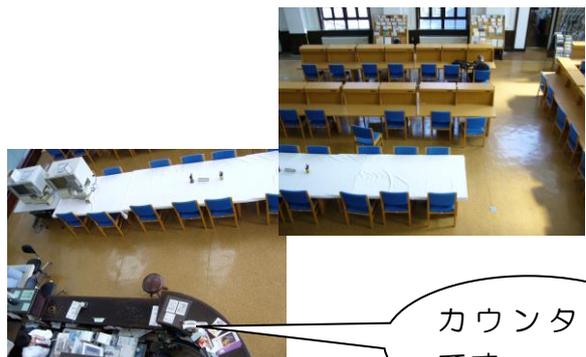


土居 夏樹 館員

閲覧室カウンターで、本の貸出や読書相談といった閲覧業務を担当しております土居と申します。

皆さんが図書館を利用する際、いろいろとわからないことなどがあるかと思います。そんな時は、どんな些細なことでも結構ですので、どうぞお気軽にお声をおかけくださいませ。

わからないことなどがあったら、
お気軽に 図書館員に
たずねて
ください。



カウンター
です。

今月のおすすめ図書！

※このコーナーは、いろいろな人からおすすめの本を紹介してもらおうコーナーです。今月は武内孝善先生のおすすめです。



竹内信夫著『空海入門—弘仁のモダニスト—』（ちくま新書 107 1997年5月）

請求記号：462/ク/58 資料ID：971001800

空海の一つ一つのことはをこれほど深く吟味し、大切に書かれた本を知らない。文学とはこういうことだったのか、まさに「目からうろこ」の衝撃であった。それに、著者はつねに空海が立った場所に立ち、空海と同じ目線で見、考えようとしており、

この基本姿勢にも驚嘆させられた。

本書は、東京大学でフランス文学を講じている著者が、半年間にわたる高野山大学での内地研修中に書上げたものであり、私にとっても忘れがたい一冊である。なぜなら、著者とはほとんど毎日、空海について語りあい、ともに山内を散策した仲だからである。彼はじつによく歩いた。そうして、自らの肉体を通して、空海を、高野山を理解しようとした。その結晶が、この本である。

本書の主題は、空海にとって高野山とは何だったのか、である。空海にとって、高野山はアルファでありオメガであった、がその答え。つまり、空海を空海たらしめた、もっとも重要な場所がこの高野山であったという。

ともあれ、本書には空海の珠玉の言葉にもとづいた、人間味あふれる空海が画きだされているので、ぜひ一読されることをお勧めしたい。さいごに、空海のことばを一つ。

南山の松石(しょうせき)は看(み)れども厭(あ)かず

南嶽の清流は憐(あわ)れむこと已(や)まず (中略)

斗(と)藪(やぶ)して早(はや)く入(い)れ、法(ほ)身の里 (『性霊集』第一「入山興」より)

今月の…ぴか！



※このコーナーは素朴な疑問を
考えるコーナーです。



“ドーナツ”はどのようにして輪っかなの？

日頃何気なく食べているドーナツ (dough-nut)。Dough は生地、nut はナッツ・クルミで、その名前には、“輪っか”という意味は含まれていません。

製菓実験社編の『ドーナツ全書』(製菓実験社、1965年)によれば、ドーナツはもともと、輪っかの形ではなく、円形で真中にクルミをのせた形だったとのこと。ドーナツが今のように輪

っかの形になった理由にはいろいろと説があり、アメリカの有名な船長が子ども時代、ドーナツの真ん中がうまく揚がってないのが嫌で、母親に「真ん中の部分だけくり抜いて揚げてほしい！」と頼んだことから始まったという説もあるそうです。

今では“ドーナツ”と言えば、輪っかの形がすっかり定着していますが、歴史があるんですねえ……。

※『ドーナツ全書』には、ドーナツの歴史のほかにも、いろんな国での呼び方や種類、作り方が紹介されています。図書館では所蔵していませんが、他の図書館から取り寄せることができますので、興味をお持ちの方は閲覧室カウンターまでお越しください。



2007年4月の開館予定表						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	㊟
22	23	24	25	26	27	28
29	30	1	2	3	4	5

閉館
9:00-19:00
9:00-17:00
13:00-19:00
9:30-12:00/ 13:10-17:00

(編集後記) 図書館だよりを発行しました。少し楽しいものにしたいなあ…と、ぼんやりと思いつかべてたものが形になってよかったです。「それゆけ！としょかんだより」を読んでいただきありがとうございます。これからも、よろしくお願ひいたします。(玉)

発行所

〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山385 高野山大学図書館 閲覧室

Tel:0736-56-3835 / Fax:0736-56-5590 / E-mail:service-lib@koyasan-u.ac.jp